

公益財団法人日本テニス協会
アニュアルレポート 2024

JTA Annual Report 2024

JTAアニュアルレポート2024の発刊にあたって



公益財団法人日本テニス協会 会長

山西 健一郎

JTAアニュアルレポートは、日本テニス協会の活動と運営状況を広くテニス愛好家、協賛企業、寄附者、関係者の皆さまにお伝えする重要な情報発信ツールのひとつです。2024年版を発刊するにあたり、本会を代表してごあいさつ申し上げます。

私は2019年4月に会長に就任いたしました。その後、コロナ禍による各主催大会の中止と再開、東京オリンピック・パラリンピックの開催、2022年3月の本会創立100周年と佳子内親王殿下をお迎えしての記念式典の挙行、今年はパリオリンピック・パラリンピックと、様々な経験を重ねました。就任当時お約束した風通しの良い組織運営を通じた「健全性・収益性・成長性を重視したバランス経営」を2024年度も追及しております。

「健全性」とは、①安全と健康 ②インテグリティ（誠実さ）③コンプライアンス（倫理遵法）④ガバナンス（健全な自己管理）を確保し実行すること。「収益性」とは、公益性を考えた本会、ひいては日本のテニス界を守るために安定的な収支を確保し続けること。そして「成長性」とは、次代の日本テニス界を支える人材を育てるためにすそ野を広げ（普及）、育て（育成）、世界に送り出す（強化）ことに他なりません。

そのうえで2024年度に実行中の施策をいくつか述べさせていただきます。

第一は不断の支出削減努力は当然の事ながら、それを上回る収入を確保することで安定した収支を実現し、我が国テニス界の将来に向け必要な資金を確保できるよう努めることです。本会の経営を支える支柱の事業の価値を従来以上に高め、収入の増加を図ると共に、将来の柱となるべき事業に新たな価値を創造し、それを評価いただくことで第二、第三の収入源とすべく、ステークホルダーの皆さまとの対話を続けています。また、各種登録料の見直しや寄附募集活動の拡大による財政基盤の拡充も行っています。

第二は「富士山プロジェクト（中長期強化育成プラン2022-2032）」の推進です。富士山は誰もが憧れる頂のシンボル。そこへ至る多様な登頂ルートが存在するように、トッププレイヤーの育成にも様々なパスウエ

イが存在します。私たちは、近年目覚ましい成長を遂げ、世界で活躍する日本人選手たちを通して学んだ知見を活かし、新たな若手プレイヤーを常に世界ランキング100位以内に送り込むための活動を行っています。

第三はテニス人口の維持拡大です。テニピンやTENNIS PLAY & STAYをツールに、就学前、小学校年代の子供たちが、離脱することなく中学校年代へ移行する仕組みを引き続き構築していくとともに、ジュニアからシニアまで各年代に応じた様々な大会やプログラムの提供など、生涯スポーツとしてのテニスの素晴らしさを内外に伝え、競技、娯楽、健康、観戦といった多様な志向のニーズに応えてまいります。またこれを支える指導者や審判の育成、技能の向上に向けた諸活動も行っています。

第四は、誰もが安全・安心にテニスを楽しむ環境を守る活動です。夏の暑熱対策として、本会医事委員会の医師やトレーナーを中心に「熱中症予防JTA公式テニストーナメント開催ガイドライン」を作成し、各種大会やイベントの運営指針としました。

また、テニスの現場における「暴力」「暴言」「ハラスメント」「差別」などを防止するため、本会の倫理に関する指針や規程の遵守を求める活動を、研修や配信学習などで行っています。さらに日本スポーツ協会等が推進する「NO! スポハラ」活動に参画すると共に、ジェンダー平等やLGBTQについての学習会を開催し、知識の向上にも努めています。

第五は、多様なテニスの普及と発展です。車いすテニス、ブラインドテニス、デフテニス、立位テニス、スペシャルオリンピックステニス競技等の統轄団体との交流を行っています。さらに、この活動に興味を持ってくださっている企業様をはじめとした方々とも、コミュニケーションを取っています。

2019年の就任時に感じた日本のテニスを統轄する中央競技団体の会長に就く名誉と、国際舞台で活躍する日本選手を支援する責任の重さに気が引き締まる思いは、5年が経過した今でも変わりません。ステークホルダーの皆さま、そして全国のテニス愛する皆さま、引き続き本会の活動にご理解とご支援をよろしくお願ひ申し上げます。

以上

環境を守る
スポーツを守る
未来を守る

TEAM JAPAN!

来たときよりもきれいに!



公益財団法人日本オリンピック委員会
Japanese Olympic Committee

活動目的

生涯にわたり誰でも参加できるテニスは伝統的な大衆スポーツで、オリンピック・パラリンピック競技スポーツという国際性を持ち合わせることから、国民スポーツとしての役割は大きいといえます。当協会はテニス振興をその公益活動目的に据え事業を行っています。

生涯スポーツとしての普及

テニス人口の裾野拡大のためにはテニピン及びTENNIS PLAY & STAYを通じた普及が鍵であると考えています。加えて、テニス競技の中体連加盟による中学校テニス活動の推進、選手登録・ランキング制度のジュニア選手・ベテラン選手への拡大適用、テニス指導者の養成も重視しています。またテニス界としての全国規模の連携イベント「テニスの日」に参加しています。



観るスポーツとしての振興

世界の多くの方がテニス観戦を楽しんでいます。日本においてもジャパン・オープン、パン・パシフィック・オープン、ジャパン・ウイメンズ・オープン、全日本テニス選手権などの国際・国内大会が開催されています。当協会もこれらの主要大会の多くを主催し、また、全国各地で開催される多くの競技会も公認・後援しています。



ジャパンウイメンズオープン



競技スポーツとしてのジュニア育成と選手強化

テニスの普及・育成・強化には中長期的な取り組みが不可欠とし、2018年に「日本のテニスの中長期戦略プラン」を策定しました。選手の育成・強化については、当面はトップ100位選手の恒久的な輩出やパリオリンピックでのメダル獲得、デビスカップ・ビリージーンキングカップでの上位進出などが施策の中心となります。ナショナルチームは、味の素ナショナルトレーニングセンターや第一生命相模園テニスコートを拠点に競技力向上を図っており、日本スポーツ振興センターによる委託・助成事業、日本オリンピック委員会の補助・助成事業に加え、多くの企業からの協賛金、個人・団体からの寄附金、公益・一般財団からの助成・補助さらには大会出場選手からの協力によるワンコイン制度等からの支援を受けています。またジュニア選手の育成も本格化させ、ナショナル代表選手への移行を早めるための特別ジュニア強化プランの遂行や、フランステニス連盟及びオーストラリアテニス協会との相互協力覚書の締結による育成・強化分野での国際交流事業も行っていきます。



ガバナンス向上・コンプライアンス確保

- ・選手・指導者・審判員・役員等を対象とした研修会の実施
- ・公式ホームページ等を通じた情報発信による開かれた活動
- ・公益法人としての認定財務3基準の遵守
- ・中央競技団体としてのガバナンスコードの遵守
- ・登録プロフェッショナル選手を対象とした法令遵守施策の採択
- ・日本テニス界のスポーツ・インテグリティ確保のための情報提供と啓発活動

テニス基盤・環境整備

- ・選手登録制度の運営
- ・公認審判員制度の運営
- ・指導者資格の運営
- ・認定テニス・トレーナー制度の運営

令和5年度の日本テニスを振り返る

全仏・混合で加藤が優勝、日本勢連覇

日本女子は2023年もダブルスで活躍した。23年全仏オープン混合ダブルスでは、加藤未唯がT.プッツ（ドイツ）と組んで初優勝を果たした。1回戦から準決勝まで4試合をストレート勝ちした加藤／プッツは、B.アンドレースク（カナダ）／M.ビーナス（ニュージーランド）との決勝で初めてセットを失ったが、4-6、6-4、[10-6]と逆転勝ちしてタイトルを獲得した。全仏の混合ダブルスは、前年にW.コールホフ（オランダ）と組んで制した柴原瑛菜に続く日本勢の2年連続優勝となった。加藤はA.スーチャディ（インドネシア）と組んだ女子ダブルスでも同年8月のテニス・イン・ザ・ランド（米国）に優勝、さらに24年2月のタイ・オープン（タイ）も制してツアー優勝回数を5度に伸ばした。青山修子と柴原のペアも23年6月のリベマ・オープン（オランダ）で2年ぶりに優勝すると、同年8月にはWTA1000大会のナショナル・バンク・オープン（カナダ）も制して10度

目のツアー優勝を飾った。

シングルスでは日比野菜緒が存在感を示した。23年8月のプラハ・オープン（チェコ）シングルスにラッキールーザーで本戦入り、1回戦でベテランのS.エラニ（イタリア）に辛勝するとその勢いに乗って快進撃を演じた。雨で二日かかりとなった準決勝をフルセットで切り抜けると、決勝では第4シードのL.ノスコバ（チェコ）を6-4、6-1で破り、4年ぶり3度目のツアー優勝を果たした。日比野はO.カラシニコワ（ジョージア）と組んだダブルスでも優勝して単複2冠を達成した。

23年7月に女兒を出産した大坂なおみは、24年シーズンから復帰した。1月の全豪オープンでは1回戦で第16シードのC.ガルシア（フランス）に競り負けたが、同年2月のカタル・オープン（カタル）では1回戦でガルシアにストレート勝ちしてベスト8に進出、5月のイタリア国際（イタリア）でもシード勢を連破して4回戦に進み潜在能力の高さを証明した。



車いすの小田は四大大会で3勝

男子は西岡良仁が23年6月の全仏で第27シードに入ると3試合を勝ち上がって、1968年のオープン化以降では錦織圭に続く日本男子2人目のベスト16入りを果たした。4回戦ではT.エチェベリ（アルゼンチン）に敗れたものの、世界ランクを自己最高位となる24位まで上げた。さらに同年9月の珠海オープン（中国）では4試合を勝ち上がった。決勝では第1シードのK.ハチャノフ（ロシア）に敗れたものの、ツアーで5度目の決勝進出だった。ダニエル太郎も24年1月のASBクラシック（ニュージーランド）で、2018年以来となるツアー決勝に勝ち上がった。しかし、決勝ではA.タビロ（チリ）に敗れて6年ぶりのツアー優勝はならなかった。

23年ウィンブルドンでは、望月慎太郎と島袋将がともに予選を突破して四大大会本戦にデビューした。この大会では、綿貫陽介がラッキールーザーで本戦入りすると、23年全豪に続く四大大会2度目の2回戦進出を果たした。島袋は23年全米でも予選を突破して本戦進出、望月は24年全豪の予選3回戦で敗れたがラッキールーザーで本戦に参戦した。

22年1月に股関節を手術した錦織圭は、23年6月のチャレンジャー大会で1年8か月ぶりに大会に出場。同年7月のアトランタ・オープン（米国）ではツアー復帰も果たし、ベスト8に進出した。ただ、錦織はこの大会で左ひざを痛めて再びツアーを離脱、再復帰は

24年3月のマイアミ・オープン（米国）となった。

車いすテニスの小田凱人は23年の全仏・男子シングルスで四大大会初優勝を飾った。17歳1か月の小田は、68年のオープン化以降、健常者部門を含めて男子シングルスで最年少の優勝だった。この優勝で小田は初めて世界ランク1位となった。小田は23年ウィンブルドン、24年全豪の男子シングルスでも優勝した。

BJK杯は初のファイナル進出

杉山愛監督の新体制でビリー・ジーン・キング杯に挑んだ日本は、23年11月、東京・有明にコロンビアを迎えてプレーオフを戦った。シングルスに出場した日比野菜緒と本玉真唯は、ともに相手ナンバー1のC.オソリオに敗れはしたが、ナンバー2の選手からは着実に白星を勝ち取って、2勝2敗でシングルスを終えた。最終戦のダブルスでは、青山修子／柴原瑛菜がY.リサラソ／オソリオのペアを7-5、6-2で破り、日本が3-2でコロンビアを下してファイナル予選に進出した。

24年4月のファイナル予選もホーム開催となり、日本は東京・有明でカザフスタンと対戦した。杉山監督はシングルスに日比野と出産を経て大会に復帰した大坂なおみを起用した。第1日は第1試合で日比野がA.ダニリナに快勝すると、第2試合でも4年ぶりのBJK杯出場となった大坂がY.プティンツェワに競り勝



った。第2日の第1試合でも日比野がプティンツェワに最終セットのタイブレークで2-6とマッチポイントを握られながらも逆転、6-4、3-6、7-6（7）と接戦を制した。シングルスに3連勝した日本はカザフスタンを破って、同年11月のBJK杯ファイナルに進んだ。日本がBJK杯ファイナルに進出するのは初めて。

デ杯はWG1部へ

添田豪監督で臨んだ日本は、23年9月にワールドグループ1部でイスラエルと対戦した。テルアビブで行われた対戦第1日のシングルスは、島袋将が白星をつかんだが、望月慎太郎は逆転負けして1勝1敗で終えた。第2日は第1試合のダブルスでマクラクラン勉／上杉海斗がストレート勝ちして、ファイナル予選進出まであと1勝とした。しかし続くシングルスで島袋がD.クキエルマンに逆転負け、望月もI.オリエルに逆転負けして2勝3敗でイスラエルに敗れた。ワールドグループ1部プレーオフに回った日本は24年2月、レバノンと中立国のエジプトで対戦した。西岡良仁と綿貫陽介が出場した日本は第1日のシングルスで西岡がH.ハビブをストレートで下したが、綿貫はB.ハッサンに敗れた。第2日第1試合のダブルスに西岡／綿貫を起用して勝負に出た日本は、このダブルスを7-5、7-5で辛勝すると、続くシングルスで西岡がハッサンに1-6、7-6（2）、6-4と逆転勝ちした。シングルスとダブルスで3勝を挙げた西岡の活躍でレバノンを下した日本は、ワールドグループ1部に進んだ。



杭州アジア大会で綿貫が銀メダル

杭州アジア大会（中国）は23年9月に行われた。男子シングルスでは綿貫陽介が決勝に進出したが、決勝で中国選手に惜敗した。望月慎太郎は3回戦で中華台北の選手に敗れた。女子シングルスでは、加治遥がベスト4に進んだが、準決勝で中国選手に逆転負けし、岡村恭香は準々決勝でフィリピンの選手に敗れた。男子ダブルスでは羽澤慎治／上杉海斗が準々決勝で敗退。女子ダブルスの小堀桃子／清水綾乃は2回戦で敗れた。混合ダブルスでは、小堀／上杉と羽澤／清水がともに3回戦敗退。日本がテニスで獲得したメダルは、綿貫（男子シングルス）の銀メダルと加治（女子シングルス）の銅メダルと2個だった。

ジャパンオープン

男子の望月、女子の本玉が4強

木下グループジャパンオープンの男子大会は23年10月、東京・有明で開催された。日本勢は西岡良仁、ダニエル太郎、綿貫陽介、島袋将、望月慎太郎の5選手が出場、20歳の望月がベスト4に進出した。望月は1回戦で世界31位のT.エチェベリ（アルゼンチン）を破り日本勢でただ一人初戦を突破すると、2回戦では第1シードで世界10位のT.フリッツ（米国）に逆転勝ちした。安定したストロークに巧みなネットプレーを織り交ぜる望月は、準々決勝でも高速サーブと強打を武器にするA.ポピリン（豪州）にフルセットで競り勝って4強入りを果たした。準決勝ではA.カラツェフ（ロシア）に敗れたが、ツアー大会で初白星を挙げると、一気にベスト4まで駆け上がった望月の活躍は大会を盛り上げた。

優勝したのは、21歳のB.シェルトン（米国）。22年に全米大学王者となってプロ転向したシェルトンは、1回戦でダニエル太郎に逆転勝ちすると、左腕からのパワフルなサーブと強烈なストロークを駆使して、強敵を連破した。決勝ではカラツェフを7-5、6-1で下した。シェルトンはこれがツアー初優勝だった。車いすテニスのシングルスでは、第1シードの小田凱人が決勝で眞田卓を下して初優勝。ダブルスは、S.ウデ（フランス）と組んだ眞田が制した。

木下グループジャパンオープンの女子大会は23年

9月、会場を広島から大阪・靱テニスセンターに移して4年ぶりに開催された。日比野菜緒、坂詰姫野、土居美咲、本玉真唯、内島萌夏と5選手が出場した日本勢では、本玉が4強入りした。1回戦で張修貞（韓国）を下した本玉は、2回戦で第7シードのN.ポドロスカ（アルゼンチン）をストレートで破ると準々決勝ではA.ハルトノ（オランダ）に逆転勝ちした。しかし、準決勝でA.クルーガー（米国）に敗れて決勝には進めなかった。坂詰と内島は2回戦に進出した。決勝ではノーシードのクルーガーが第1シードの朱琳（中国）を6-3、7-6（6）で破り優勝した。19歳のクルーガーはツアーで初めてのタイトル獲得。車いすテニスのシングルスでは、第1シードの上地結衣が決勝で第2シードの田中愛美を6-1、6-2で下し、初代女王の座に就いた。ダブルスは田中と船水梓緒里のペアが優勝した。

女子の加治、男子の徳田が全日本初優勝

三菱ビルソリューションズ全日本選手権は23年10月～11月、東京・有明で行われた。

女子シングルスでは11度目の出場となった29歳の加治遥が念願のタイトルを獲得した。第1シードの加



治は、準決勝で第7シードの清水映里に第1セットを奪われたが、大会を通じて失ったのはこの1セットだけ。決勝では第2シードの西郷里奈に6-3、6-2と快勝した。第3シードの伊藤あおいは2年連続でベスト4に進んだが、準決勝で西郷に逆転負けした。

男子シングルスは25歳の徳田廉大が初優勝を果たした。18年大会決勝で伊藤竜馬に敗れていた第5シードの徳田は、準々決勝でその伊藤にストレート勝ちすると、準決勝ではベテランの片山翔を下して、5年ぶりに決勝に進出した。決勝では第7シードの白石光に6-2、6-2と快勝した。

女子ダブルスは伊藤／瀬間詠里花が初優勝。19年連続出場となる瀬間は、2010年の混合ダブルス以来となる全日本のタイトルを獲得した。男子ダブルスでは3連覇を狙った上杉海斗／松井俊英は準決勝で敗れ、市川泰誠／渡邊聖太のペアが初優勝を飾った。

（年齢は当時）



I 組織運営と事業活動

大正11（1922）年に日本庭球協会として発足した本会は、令和5（2023）年度に創立101年の新たな節目を迎えると共に、専務理事以下の役員、各専門委員会・専門部の長や委員、部員の多くも新任となり、次代を創るにふさわしい新たな体制となりました。

そして、私たちは次の100年に向けた歩みを正しく導くものとするために作成した、新しい理念・ビジョン・行動指針にもとづき、この1年を歩んできました。

【理念】

わたしたちはテニスを通じて人と人、国と国をつなぎ、その素晴らしさを伝え、すべての人が健やかで幸福な人生を享受でき、多様性と調和のある社会の実現に貢献します

【ビジョン】

- ・すべての人の豊かなスポーツライフに寄与します
- ・国内外の人々や組織と協力し、テニスの発展に尽力します
- ・世界レベルの選手を一人でも多く輩出し、夢と感動を届けます
- ・健全で安定した協会運営を行います
- ・公正で差別がなく、ジェンダー平等に基づき、誰もが活躍できる組織を目指します

【行動指針】

- ・フェア 常に公平、公正、誠実な姿勢を貫きます
- ・グローバル 世界的視野を持って行動し、海外の関係者と積極的に交流します
- ・チームワーク 活発なコミュニケーションをはかり、互いを尊重し、力を合わせて前進します
- ・共創 ステークホルダーの声に耳を傾け、共にテニスの未来を築きます
- ・挑戦 歴史と伝統を重んじつつ、変化を恐れずチャレンジし続けます
- ・感謝 いつも感謝を忘れず、テニスの持つ力を信じ、愛し、伝え続けます

そのうえで、本会会長の掲げる「健全性・収益性・成長性を重視したバランス運営」を実行しました。「健全性」とは、①安全と健康 ②インテグリティ（誠実さ） ③コンプライアンス（倫理遵法） ④ガバナンス（健全な自己管理）を確保し実行することであり、「収益性」とは、公益性を考えつつも本会、ひいては日本のテニス界を守るために安定的な収益源を確保し続けることであり、「成長性」とは、次代の日本テニス界を支える人材を育てるためにすそ野を広げ（普及）、育み（育成）、世界に送り出す（強化）ことに他なりません。上記を踏まえ、令和5年度に実行した主な活動をいくつか述べさせていただきます。

第一は、未曾有のコロナ禍を経験した後に再開した各主催大会を、いかに以前の状態に戻し、超えていくかを追求しました。これは、新しく始めた主催大会も同様です。私たちも含め、支えてくださる方々の状況が以前とは変化していることもあり、ステークホルダーの皆さまと様々に対話しながら、進めてきました。

さらに、国内で開催される全ての大会において、安全・安心にプレーし、観戦していただくための諸施策に取り組みました。特に夏の暑熱対策は「熱中症予防JTA公式テニストーナメント開催ガイドライン」を作成し、大会を運営する幅広い方々の指針となるよう、努めました。

第二は、痛んだ協会財政を立て直し、日本テニス界の未来に向けた資金の確保を行ったことです。各事業においては価値の向上による収入の増加と、経費の削減を継続して行い、常に収支が良好な状態を確保できるよう努めました。また、各種登録料の見直しや寄附募集活動の拡大による財政基盤の拡充も、行いました。

第三は、「子供たちが憧れる日本代表」の輩出を目指し、国を代表する「誇り」「敬意」「志」にあふれたプレーヤーを育成するための様々な施策を網羅した、「富士山プロジェクト（中長期強化育成プラン 2022-2032）」を推進したことです。

富士山が我が国の誰からも愛され、誰もが憧れ山頂を目指すシンボルでありながら、多様な登頂ルートが存在するように、トッププレーヤーの育成にも様々なパスウェイが存在します。私たちは、近年目覚ましい成長を遂げ、世界で活躍する日本人選手たちを通して学んだ知見を活かし、新たな若手プレーヤーを常に世

界ランキング100位以内に送り込むための活動を、進めました。

第四は、テニピン、TENNIS PLAY & STAY をツールとし、子供たちをテニスに誘う活動を行ってきましたが、その過程で、テニスを始めた子供たちの離脱を防ぐ必要性にも気づいたことです。新たな普及戦略を確立し、日本中学校体育連盟への加盟活動とあわせ、小学校年代の子供たちが、離脱することなく中学校年代へ移行する仕組みを構築していくとともに、文部科学省が推進している「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革」についても、その動きを注視しながら対応を取りました。

第五は、多様なテニスの普及・発展を目指し、車いすテニス、ブラインドテニス、デフテニス、立位テニス、スペシャルオリンピックステニス競技等、各団体との交流を図ったことです。さらに、この活動に興味を持ってくださっている企業様をはじめとした方々とも、積極的なコミュニケーションを取りました。

また、ジェンダー平等を推進するために、ガバナンスコードにもとづいた活動を利用し、本会、地域、都道府県テニス協会役員への女性登用の拡大を、働きかけてきました。そして「LGBTQ+」「SOGI」についても様々な部門で各種課題への討議を開始し、外部講師を招聘した研修会も実施し、知識の向上に努めました。

以上、代表的な活動をご紹介しましたが、各々の詳細につきましては「Ⅲ 委員会別の主な事業内容」にて、説明申し上げます。

Ⅱ 事業内容

本会は、定款第4条に定めた公益目的を達成するため、下記の事業を行いました。

- (1) テニスの普及及び指導・育成
- (2) テニス選手の競技力向上
- (3) 国内・国際テニス競技会の主催及び国内で開催されるテニス競技会の後援・公認
- (4) 国際テニス競技会への代表者の選考、派遣及び外国からの選手の招聘
- (5) テニスに関する公認指導員及び審判員の養成及び資格認定

- (6) テニス選手の登録、ランキングの管理・運営
- (7) テニス競技の健全な発展のための基盤及び環境の整備
- (8) テニス競技の普及・振興のための調査・研究及び広報活動
- (9) 日本テニス界を代表して、内外のテニス団体・スポーツ関連団体との交流、協力及び支援
- (10) その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

令和5年度日本テニス協会活動日誌

月	主な業務活動	主要イベント	
		国内	海外
4月	11日 常務理事会	4～8日 MUFGJr(名古屋)	3/20～25日 ワールドJr女子AO予選 (マレーシア) 3/27～1日 ワールドJr男子AO予選 (マレーシア) 11～15日 BJK杯アジア/ オセアニアグループ1部 (ウズベキスタン)
5月	17日 常務理事会 26日 通常理事会・委員長会議	18～21日 全国選抜Jr(柏)	1～6日 BJK杯JrAO予選 (カザフスタン) 8～13日 デ杯JrAO予選 (カザフスタン) 28～6/11日 全仏オープン
6月	14日 評議員会・臨時理事会 22日 常務理事会		
7月	20日 常務理事会 28日 臨時理事会	21～23日 全日本都市対抗(佐賀)	3～16日 ウィンブルドン選手権 29～8/6日 ワールドユニバーシティ ゲームズ・テニス競技 (中国)
8月	18日 常務理事会	1～7日 高校総体(北海道) 2～6日 全国小学生(東京) 14～20日 全日本小学生(四日市) 17～27日 全日本Jr(東京) 18～21日 全国中学生(高松) 23～29日 日韓中Jr(和歌山) 25～27日 ビジネスバルB大会(浜松) 29～31日 全国高専(東京)	7～12日 ワールドJr決勝大会 (チェコ) 28～9/10日 全米オープン
9月	13日 常務理事会	9～17日 ジャパンオープン女子 (大阪) 11～15日 全日本東日本大会(兵庫) 11～15日 全日本西日本大会(兵庫) 16～19日 スポーツマスターズ(福井) 19～25日 東レPPO(東京) 23日 テニスの日 30～10/4日 全日本大学王座(松山)	16～17日 デ杯ワールドグループ1部・ ウズベキスタン戦 (イスラエル) 24～30日 アジア競技大会・テニス競技 (中国)

月	主な業務活動	主要イベント	
		国内	海外
10月	12日 常務理事会	1～10日 全日本ベテラン (名古屋・福岡) 6～9日 全国実業団A大会(広島) 7～10日 ビーチテニス全日本選手権 (神奈川) 8～11日 国体テニス競技(鹿児島) 14～22日 ジャパンオープン(東京) 7～15日 世界スーパーJr(大阪) 11～12日 ピンクリボン全国決勝大会 (神奈川) 13～15日 RSK全国選抜Jr(岡山) 15～22日 ジャパンオープンJr (名古屋) 25～11/5日 全日本選手権(東京) 28～31日 ねんりんピック(松山) 31～11/5日 U-15全国選抜Jr中牟田杯 (福岡)	29～11/6日 WTAファイナル(メキシコ) 30～11/5日 デ杯Jr/BJK杯Jr決勝大会 (スペイン)
11月	15日 常務理事会	9～11日 全国レディース全国決勝大会 (昭島) 10～11日 BJK杯プレーオフ・コロムビア戦(東京) 13～17日 Road to AO Jr(四日市) 23～26日 全日本Jr選抜室内(兵庫) 27～12/3日 四日市チャレンジャー (四日市)	7～12日 BJK杯ファイナル(スペイン) 12～19日 ATPファイナル(イタリア) 21～26日 デ杯ファイナル(スペイン)
12月	12日 常務理事会 20日 臨時理事会	7～10日 日本リーグ1stステージ (横浜・兵庫) 13～17日 全日本学生室内(吹田) 13～24日 全日本室内(京都)	
1月	16日 常務理事会 31日 臨時理事会	17～21日 日本リーグ2ndステージ (横浜・兵庫)	16～29日 全豪オープン
2月	14日 常務理事会	16～18日 日本リーグ決勝トーナメント (東京)	2～3日 デ杯ワールドグループ1部 プレーオフ・レバノン戦 (エジプト)
3月	6日 常務理事会 13日 通常理事会 21日 臨時評議員会	20～26日 全国選抜高校(福岡)	

I 事業方針

本会会長が就任時より掲げている「健全性・収益性・成長性の確保」方針を確かなものとするために、恒常的な支出の削減とあらたな収入の確保を行いながら、我が国テニスのすそ野を拡げ未来を獲得するための諸活動を行います。その代表的なものを下記に紹介します。

「子供たちが憧れる日本代表」の輩出を目指し、国を代表する「誇り」「敬意」「志」にあふれたプレーヤーを育成するための様々な施策を網羅した、「富士山プロジェクト（中長期強化育成プラン2022-2032）」を引き続き推進します。富士山が我が国の誰からも愛され、誰もが憧れ山頂を目指すシンボルでありながら、多様な登頂ルートが存在するように、トッププレーヤーの育成にも様々なパスウェイが存在します。私たちは、近年目覚ましい成長を遂げ、世界で活躍する日本人選手たちを通して学んだ知見を活かし、新たな若手プレーヤーを常に世界ランキング100位以内に送り込むための活動を、継続します。そしてそのひとつの成果を、パリオリンピックの会場から届けることを目標とします。

観るスポーツとしてのテニスの楽しさをファンの皆さまに共有いただくために、本会は様々な国際・国内大会を主催・後援・公認しています。アジアで最も古い歴史を持つATP500大会である木下グループジャパンオープン、今年も女子のWTA250大会、男女の車いすテニス大会を包含しながら、世界最高峰のプレーをファンの皆さまにお届けしていきます。また、本会創立の翌年から開始された全日本選手権は、荣誉ある賜杯をかけた国内トッププレーヤーたちの熱い戦いの場を創るとともに、来年に控える第100回大会へつなげるための様々な施策を打っていきます。また、世界で戦う選手たちをより身近に感じてもらうために、四日市や高崎をはじめとした全国で、チャレンジャー大会を開催していきます。

テニス人口の裾野拡大のためには、テニピンとTENNIS PLAY & STAYを通じ、子供たちにテニスに触れてもらい、親しみ、成長と共に次のステージへと進んでもらうことが鍵であると考えており、引き続きの活動を行います。加えて、テニス競技の中体連加盟を推進し、中学校におけるテニス活動の拡大を図ります。テニス指導者の養成も引き続き重視します。また、全国規模の連携イベント「テニスの日」に参加し、テニスの楽しさをより深く感じていただく活動も、重視していきます。そして伸び盛りの子供たちが思う存分その力を発揮し、ゆくゆくは世界に羽ばたいていくための場となる、様々なジュニア大会を開催するとともに、ベテランテニス大会を多種多様なカテゴリーをもって全国で開催し、生涯スポーツとしてテニスをいつまでも楽しんでいただく環境を、作り続けます。

そのために必要とされる規程の制定や改正、これらの事業を円滑に運営するためにマーケティングの観点から協賛獲得活動等を推進していきます。

代表的な以上の活動を通じ、本会の理念でもある、テニスを通じて、人と人、国と国とをつなぎ、その素晴らしさを伝え、すべての人が健やかで幸福な人生を享受できるような、多様性と調和のある社会の実現に、貢献していきます。

II 事業内容

本会は、定款第4条に定めた公益目的を達成するため、下記の事業を行う。

- (1) テニスの普及及び指導・育成
- (2) テニス選手の競技力向上
- (3) 国内・国際テニス競技会の主催及び国内で開催されるテニス競技会の後援・公認
- (4) 国際テニス競技会への代表者の選考、派遣及び外国からの選手の招聘
- (5) テニスに関する公認指導員及び審判員の養成及び資格認定
- (6) テニス選手の登録、ランキングの管理・運営

-
- (7) テニス競技の健全な発展のための基盤及び環境の整備
 - (8) テニス競技の普及・振興のための調査・研究及び広報活動
 - (9) 日本テニス界を代表して、内外のテニス団体・スポーツ関連団体との交流、協力及び支援
 - (10) その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

令和5年度 表彰伝達式表彰者 推薦リスト

種 類		推 薦 者		表 彰 者
個人功労賞	JTA 総務部			吉田 和子
				松野 えるだ
				中澤 吉裕
				山田 眞幹
				近藤 真章
				菅原 万智子
				小手川 励人
	地域協会・都道府県協会	関 東	群馬県	渡邊 哲
				添田 良之
				妹尾 尚美
			栃木県	松井 一浩
			茨城県	中野 雅一
			埼玉県	岡田 茂夫
			神奈川県	岡崎 崇徳
		東京都	瀧口 伊和生	
		千葉県	坪井 啓子	
		北信越	石川県	冨田 紀子
		東 海	静岡県	大畑 始生子
		関 西	大阪府	沖 明博
				讃井 知佳子
			和歌山県	吉村 恵治
			兵庫県	酒井 雅弘
		中 国	広島県	川崎 佳香
	四 国	愛媛県	井出 仁美	
	九 州	福岡県	本村 照子	
		協力団体	日本事業協会	大久保 清一
	JTA 委員会	引退選手		杉田 祐一
			森田 あゆみ	
			土居 美咲	
JTA 審判委員会	ボールパーソン	河西 賢祐		
JTA 審判委員会	ラインパーソン		鎌田 桂子	
			高橋 聖奈	
JTA 委員会	監督、コーチ、トレーナー、 メディカルドクター		横松 尚志	
			村松 憲	
			高橋 正則	
			冨岡 信人	
優秀団体賞	JTA 総務部		鈴鹿工業高等専門学校	
最優秀団体賞	JTA 総務部		相生学院高等学校	
特別感謝状	JTA 総務部	推薦会社	ヨネックス株式会社	
			ミズノ株式会社	
		クラブ・体育施設	一般社団法人爽楽会 大森テニスクラブ	

令和5年度 決算概要

単位：円

経常増減の部

経常収益	
基本財産運用益	1,700,000
受取公認推薦料	48,343,894
受取登録料	73,463,335
事業収益	2,063,790,963
受取補助金等	292,713,198
受取寄附金	34,446,958
雑収益	43,677,283
経常収益計	2,558,135,631

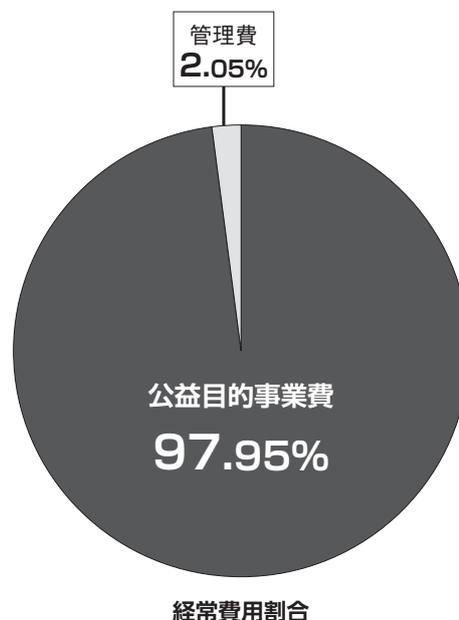
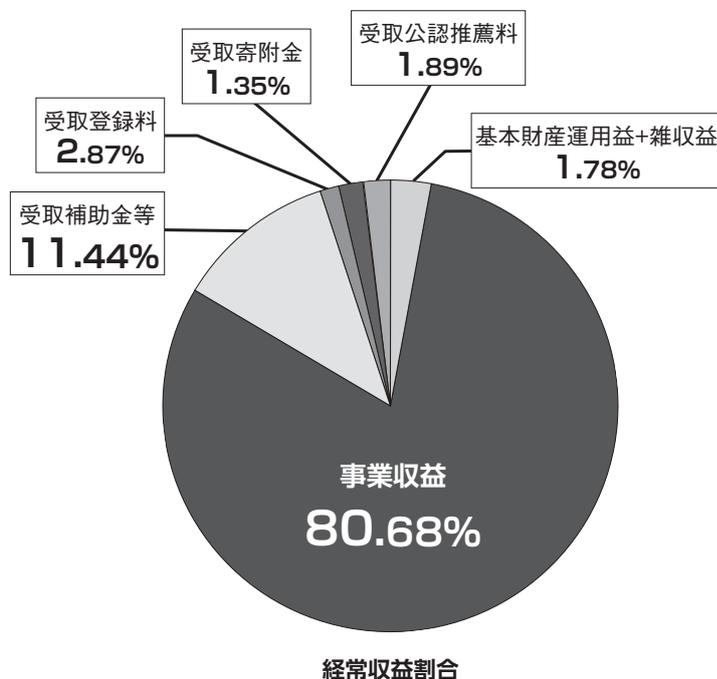
経常費用	
公益目的事業費	2,463,502,578
管理費	51,646,354
経常費用計	2,515,148,932

評価損益等調整前当期経常増減額	42,986,699
評価損益等計	0
当期経常増減額	42,986,699
当期一般正味財産増減額	42,986,699
一般正味財産期首残高	180,117,479
一般正味財産期末残高	223,104,178

指定正味財産増減の部

指定正味財産期首残高	240,718,685
指定正味財産期末残高	252,340,727

資産合計	911,618,329
負債合計	436,173,424
正味財産合計	475,444,905



公益目的事業比率 **97.95%**

詳細は当協会ホームページでご覧いただけます

正味財産増減計算書

令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

スポーツ振興くじ助成事業 (単位: 円)

科 目	当 年 度
I 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
事業収益	7,241,200
受取参加料	7,241,200
受取補助金等	30,448,000
受取助成金	30,448,000
他会計からの繰入額	1,795,471
他会計からの繰入額	1,795,471
経常収益計	39,484,671
(2) 経常費用	
事業費	39,484,671
諸謝金	12,969,500
スタッフ経費	86,360
旅費交通費	16,713,250
通信費	25,925
消耗品費	3,091,000
賃借料	2,652,204
会場費	2,414,494
備品	205,700
その他	32,010
保険料	569,758
委託費	1,634,820
その他	1,634,820
雑費	1,741,854
経常費用計	39,484,671
評価損益等調整前当期経常増減額	0
評価損益等計	0
当期経常増減額	0
2. 経常外増減の部	
(1) 経常外収益	
経常外収益計	0
(2) 経常外費用	
経常外費用計	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	0
一般正味財産期首残高	0
一般正味財産期末残高	0
II 指定正味財産増減の部	
当期指定正味財産増減額	0
指定正味財産期首残高	0
指定正味財産期末残高	0
III 正味財産期末残高	0

スポーツ振興基金助成事業 (単位: 円)

科 目	当 年 度
I 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
事業収益	91,072,782
受取協賛金	73,230,000
受取参加料	4,594,600
受取広告料	763,125
受取入場料	8,440,000
出店放映等収入	3,722,857
出版物収入	238,000
雑収入	84,200
受取補助金等	7,000,000
受取補助金	0
受取助成金	7,000,000
他会計からの繰入額	30,707,787
他会計からの繰入額	30,707,787
経常収益計	128,780,569
(2) 経常費用	
事業費	128,780,569
諸謝金	4,429,036
スタッフ経費	14,649,110
旅費交通費	648,017
通信費	90,269
消耗品費	263,036
出版印刷費	3,310,835
賃借料	27,015,592
保険料	104,893
租税公課	104,400
補助金	1,100,000
広報費	1,085,000
賞金	27,491,520
表彰費	1,299,188
選手経費	1,453,650
施設費	38,602,047
委託費	7,027,559
雑費	106,417
経常費用計	128,780,569
評価損益等調整前当期経常増減額	0
評価損益等計	0
当期経常増減額	0
2. 経常外増減の部	
(1) 経常外収益	
経常外収益計	0
(2) 経常外費用	
経常外費用計	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	0
一般正味財産期首残高	0
一般正味財産期末残高	0
II 指定正味財産増減の部	
当期指定正味財産増減額	0
指定正味財産期首残高	0
指定正味財産期末残高	0
III 正味財産期末残高	0

科 目	当 年 度
I 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
事業収益	0
雑収入	0
受取補助金等	86,161,589
受取補助金	9,233,589
受取助成金	76,928,000
他会計からの繰入額	10,153,498
他会計からの繰入額	10,153,498
経常収益計	96,315,087
(2) 経常費用	
事業費	96,315,087
諸謝金	9,475,000
スタッフ経費	148,212
旅費交通費	6,460,360
海外遠征費	70,522,705
渡航費	38,293,212
滞在費	30,412,877
その他	1,816,616
通信費	1,429,273
消耗品費	1,733,279
賃借料	136,706
会場費	136,706
備品	0
その他	0
保険料	1,891,300
委託費	638,877
その他	638,877
雑費	3,879,375
経常費用計	96,315,087
評価損益等調整前当期経常増減額	0
評価損益等計	0
当期経常増減額	0
2. 経常外増減の部	
(1) 経常外収益	
経常外収益計	0
(2) 経常外費用	
経常外費用計	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	0
一般正味財産期首残高	0
一般正味財産期末残高	0
II 指定正味財産増減の部	
当期指定正味財産増減額	0
指定正味財産期首残高	0
指定正味財産期末残高	0
III 正味財産期末残高	0

令和5年度～令和6年度 役員名簿

役職名	氏名	推薦団体・役職	役職名	氏名	推薦団体・役職
会長	山西 健一郎	理事会推薦	理事	松野 えるだ	理事会推薦
副会長	川廷 尚弘	理事会推薦	理事	吉田 友佳	理事会推薦
副会長	吉田 和子	理事会推薦	理事	相川 眞智子	理事会推薦
副会長	馬場 宏之	関西テニス協会推薦 関西テニス協会 会長	理事	井上 直子	理事会推薦
副会長	木下 信行	理事会推薦 関東テニス協会 会長	理事	伊達 公子	理事会推薦
専務理事	土橋 登志久	理事会推薦 強化育成本部長	理事	長野 宏美	理事会推薦
常務理事	坂井 利彰	理事会推薦 大会事業本部長	理事	岡川 恵美子	理事会推薦
常務理事	植田 実	理事会推薦 普及推進本部長	理事	甘露寺 重房	理事会推薦
常務理事	和田 雅彦	理事会推薦 総務財務本部長	監事	坂井 幸司	理事会推薦(関西TA) 関西テニス協会 監事
常務理事	満岡 英生	理事会推薦 マーケティング本部長	監事	鷺田 典之	理事会推薦(関東TA) 関東テニス協会 理事長
常務理事	八木 知徳	北海道テニス協会推薦 北海道テニス協会 副会長			
常務理事	菅原 宏之	東北テニス協会推薦 東北テニス協会 理事長			
常務理事	信一	北信越テニス協会推薦 北信越テニス協会 理事長			
常務理事	田中 由布子	東海テニス協会推薦 東海テニス協会 常務理事兼事務局長			
常務理事	熊野 義夫	中国テニス協会推薦 中国テニス協会 副会長			
常務理事	堀川 映子	四国テニス協会推薦 四国テニス協会 理事			
常務理事	小手川 励人	九州テニス協会推薦 九州テニス協会 副会長			
理事	三野 静子	関東テニス協会推薦 関東テニス協会 理事			
理事	西村 覚	理事会推薦			
理事	神尾 米	理事会推薦			
理事	橋本 有史	理事会推薦			
理事	松岡 修造	理事会推薦			

理事待遇 候補者名簿(定数：10名以内)

青木 弼/秋田 修廣/岡村 徳之/黒岩 睦雄/樗木 聖/荒木 秀/今井 茂樹/鈴木 宏/増岡 洋志/吉井 みさ子

顧問 候補者名簿

猪谷 千春/内山 勝/嶋岡 正充/辻 晴雄/武正 八重子/寺澤 辰磨

理事会推薦(17名)

斗澤 由香子	フリースタイルスキーオリンピック
伊藤 リナ	(公財)日本オリンピック委員会ナショナルコーチアカデミーディレクター
井原 多美	株式会社WOWOW取締役専務執行役員
植野 恵子	一般社団法人大学スポーツ協会デュアルキャリア委員会研修部会 部会員
細木 祐子	園田学園女子大学テニス部 監督
藤沼 敏則	公益社団法人日本プロテニス協会 理事長
井上 礼美	日本女子テニス連盟 理事
大久保 清一	公益社団法人 日本テニス事業協会 会長
田島 伸一	一般社団法人 全日本学生テニス連盟 理事
栗山 雅則	全日本学生庭球同好会連盟 会長
佐藤 直樹	(公財)全国高等学校体育連盟 テニス専門部 副部長
河合 康典	(一社)全国高等専門学校連合会 全国高等専門学校体育大会競技運営専門部 テニス競技委員長
齋藤 与志朗	全国中学校テニス連盟 副理事長
畑山 雅史	全国専門学校テニス連盟 理事長
佐山 篤	(一社)日本車いすテニス協会 事務局次長
高津 良英	テニス用品会 政策委員
山田 眞幹	(一社)日本ビーチテニス連盟 代表理事

地域協会推薦評議員(9名)

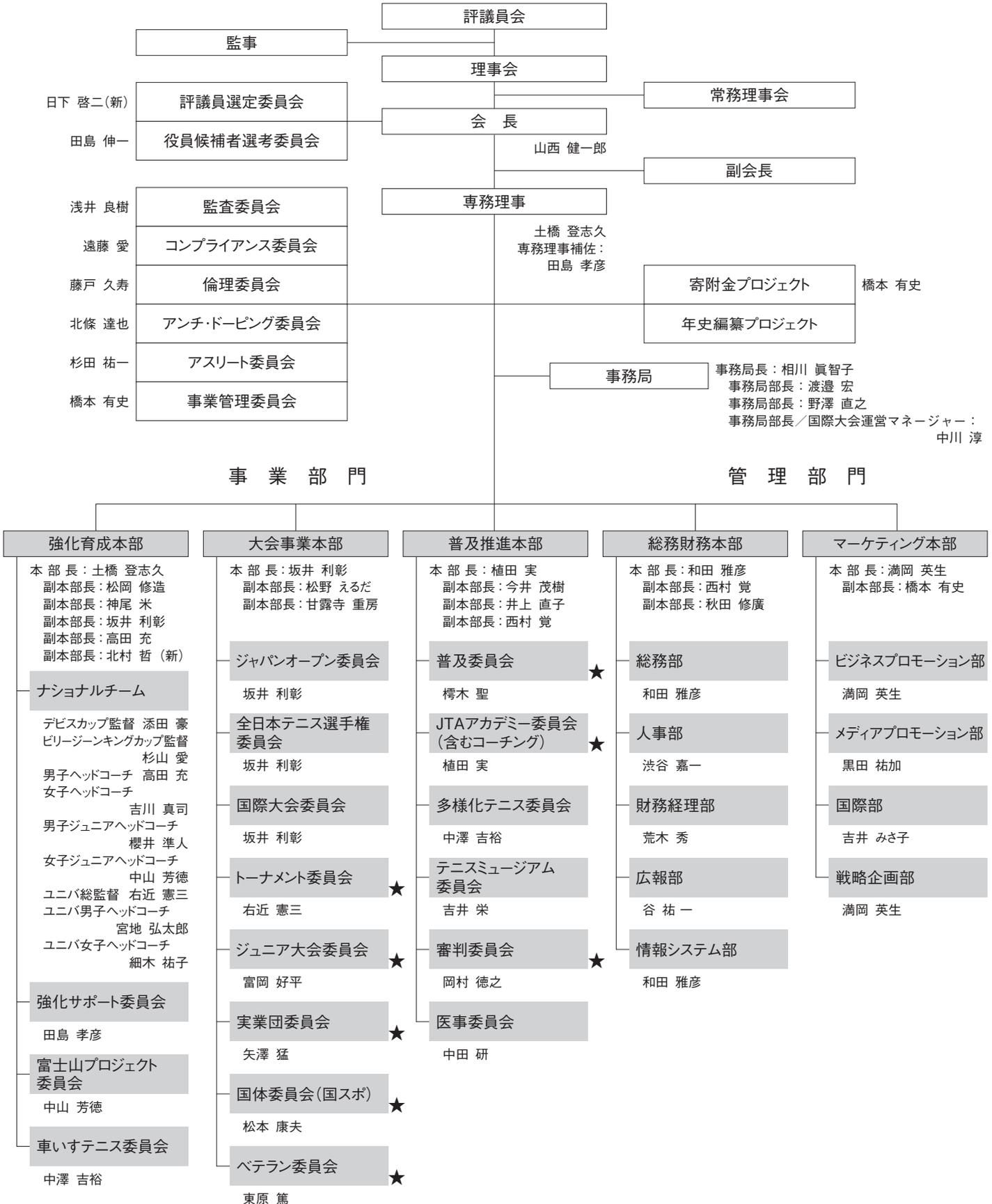
白木 裕視子	北海道テニス協会
浅沼 道成	東北テニス協会
武井 亜由美	北信越テニス協会
坪井 啓子	(一社)関東テニス協会
木下 洋子	東海テニス協会
川合 幸雄	関西テニス協会
津島 則之	中国テニス協会
沖田 栄子	四国テニス協会
合瀬 武久	九州テニス協会

都道府県テニス協会推薦(47名)

蒲生 清	北海道テニス協会	中村 博敏	群馬県テニス協会	福島 敏夫	山口県テニス協会
越善 隆	青森県テニス協会	吉井 正光	栃木県テニス協会	西村 弥子	鳥取県テニス協会
萩庭 純	秋田県テニス協会	坂田 寛	茨城県テニス協会	土屋 高明	島根県テニス協会
藤島 努	(一社)岩手県テニス協会	小林 繁	山梨県テニス協会	北川 勝義	香川県テニス協会
松田 陽一	山形県テニス協会	青山 剛	静岡県テニス協会	井澤 義治	徳島県テニス協会
樋口 博信	宮城県テニス協会	岩崎 彌廣	岐阜県テニス協会	重松 建宏	愛媛県テニス協会
大塚 由弥子	福島県テニス協会	宮尾 英俊	愛知県テニス協会	沖 宗右	高知県テニス協会
横山 悟	新潟県テニス協会	金山 敦思	三重県テニス協会	上和田 茂	福岡県テニス協会
木下 悟志	長野県テニス協会	山森 祐輔	滋賀県テニス協会	二口 稔	熊本県テニス協会
杉森 清俊	富山県テニス協会	安田 勉	京都府テニス協会	毎熊 博	大分県テニス協会
菊沢 裕	石川県テニス協会	佐藤 博子	大阪府テニス協会	德吉 剛	長崎県テニス協会
矢部 清隆	福井県テニス協会	京田 弘幸	(一社)兵庫県テニス協会	光富 美穂子	佐賀県テニス協会
横澤 規佐良	(一社)東京都テニス協会	阪中 潤	和歌山県テニス協会	大西 儀朋	鹿児島県テニス協会
日下 啓二	神奈川県テニス協会	大西 正信	奈良県テニス協会	秋田 義久	宮崎県テニス協会
岡田 茂夫	埼玉県テニス協会	東原 篤	岡山県テニス協会	玉城 智	沖縄県テニス協会
森 二郎	(一社)千葉県テニス協会	安東 善博	広島県テニス協会		

公益財団法人日本テニス協会 令和5～6年度(2023～2024年度)組織編成及び役職者

2024/7/3



★ 地域テニス協会推薦委員を含む全国委員会制度を採用

公益財団法人日本テニス協会が推奨する商品・公認するボール・推薦する会社

2024年9月1日現在

推 奨

大正製薬株式会社
リボタン Sports

公 認 【ボール】

住友ゴム工業株式会社 (ダンロップ)
DUNLOP FORT
DUNLOP AUSTRALIAN OPEN
DUNLOP ATP

ウイルソン
US OPEN EXTRA DUTY

HEAD
HEAD TOUR XT

PRINCE
プリンスボール

ヨネックス
TOUR PLATINUM

バボラ
チームオールコート

テクニファイバー
X-ONE

推 薦

【ウェア】

ミスノ株式会社
ヨネックス株式会社
株式会社デザート
株式会社ユニクロ

【シューズ】

株式会社ニューバランス ジャパン

【コート】

スポーツサーフェス株式会社
株式会社NIPPO
住友ゴム工業株式会社
積水樹脂株式会社
東レ・アムテックス株式会社
株式会社ユニチカテクノス
MCCスポーツ株式会社
前田道路株式会社
大嘉産業株式会社
泉州数物株式会社
株式会社NKT

【ストリング】

株式会社コーセン
株式会社トアルソン
ヨネックス株式会社
Babolat VS Japan株式会社
株式会社ラコステジャパン

【ネット】

テイエヌネット株式会社
鐘屋産業株式会社
株式会社寺西喜商店
有限会社ミセキネット製作所
株式会社ルイ高
鶴沢ネット株式会社
高須賀株式会社
豊貿易株式会社

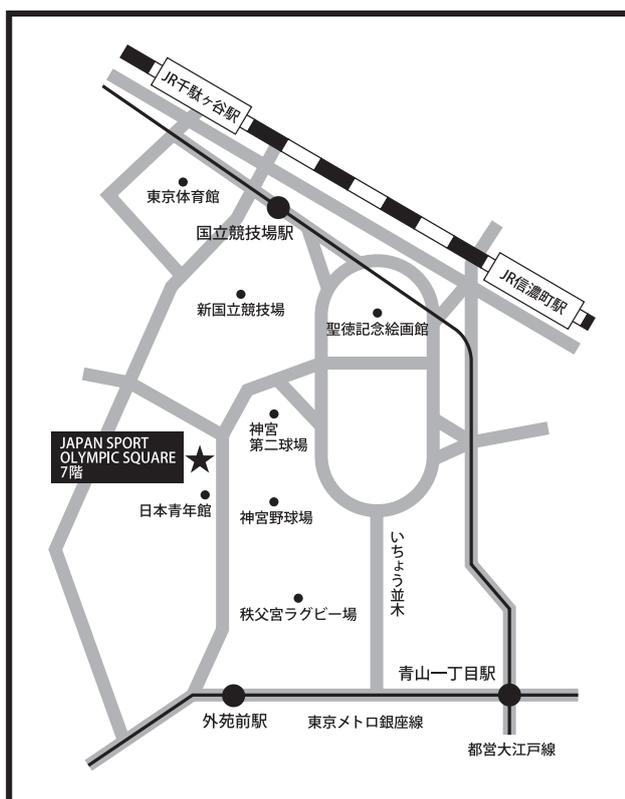
【ラインテープ】

グラス・ファイバー工研株式会社

【低周波治療器】

丸菱産業株式会社

公益財団法人日本テニス協会 Japan Tennis Association



〒160-0013
東京都新宿区霞ヶ丘町4-2
Japan Sport Olympic Square 7階
TEL:03-6812-9271
FAX:03-6812-9275
E-mail:mail@jta-tennis.or.jp
URL:https://www.jta-tennis.or.jp/

公益財団法人 日本テニス協会
JTA アニュアルレポート2025
2025年1月31日発行
発行人 山西 健一郎
編集 広報部

●本誌中の記事、写真、イラスト等の無断転載、複写複製はご遠慮ください。

スポーツを 愛する人の 翼でありたい。



大きな目標に向かって、日々練習に励む人たち。

みんなで力を合わせて、次世代に夢や希望をつないでいく人たち。

JALは、そんな勇気あふれるアスリートたちに寄り添いながら、

一人一人の未来を応援し続けます。

さあ、これからも次の自分に向かって、力強く飛ぼう。



テニスプレイヤーの エネルギー摂取に



リポビタミン JELLY Sports

詳しくは
こちらから。



清涼飲料水(ゼリー飲料)